



## 2 目標及び学習内容の系統

### (1) 系統の見方

小学校、中学校及び高等学校（「国語総合」）の目標及び学習内容の系統を、それぞれの項目について表で示しました。

- ・目標
- ・「A話すこと・聞くこと」
- ・「B書くこと」
- ・「C読むこと」
- ・〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

表中には、学習指導要領解説を参考にして指導事項のつながりを示す線を補っています。

### (2) 領域別配当時数

学習指導要領には、各領域及び毛筆（小学校）書写（中学校）について配当時数が示されています。この配当時数を目安に、年間を通して各領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕をバランス良く指導していくことで、学習指導要領に示された学習内容を確実に身に付けさせることにつながります。

#### 学習指導要領に示された配当時数

〔単位時間〕

校種		小学校						中学校		
学年		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
A話すこと・聞くこと		35	35	30	30	25	25	15～25	15～25	10～20
B書くこと		100	100	85	85	55	55	30～40	30～40	20～30
C読むこと		(171)	(180)	(130)	(130)	(65)	(65)	(55～75)	(55～75)	(45～65)
書写	硬筆							20	20	10
	毛筆	—	—	30	30	30	30			
合計		306	315	245	245	175	175	140	140	105

※（ ）は、学習指導要領に示されていないが、各学年の合計時数を基に算出した。

(3) 学年別漢字配当表

学年別漢字配当表

小学校学習指導要領第2章第1節国語別表

第1学年	一右雨円王音下火花貝学気九休玉金空月犬見五口校左三山子四糸字耳七車手 十出女小上森人水正生青夕石赤千川先早草足村大男竹中虫町天田土二日入年 白八百文木本名目立力林六 (80字)
第2学年	引羽雲園遠何科夏家歌画回会海絵外角楽活間丸岩顔汽記帰弓牛魚京強教近兄 形計元言原戸古午後語工公広交光考行高黄合谷国黒今才細作算止市矢姉思紙 寺自時室社弱首秋週春書少場色食心新親凶数西声星晴切雪船線前組走多太体 台地池知茶昼長鳥朝直通弟店点電刀冬当東答頭同道読内南肉馬壳買麦半番父 風分聞米歩母方北毎妹万明鳴毛門夜野友用曜来里理話 (160字)
第3学年	悪安暗医委意育員院飲運泳駅央横屋温化荷界開階寒感漢館岸起期客究急級宮 球去橋業曲局銀区苦具君係輕血決研県庫湖向幸港号根祭皿仕死使始指齒詩次 事持式実写者主守取酒受州拾終習集住重宿所暑助昭消商章勝乘植申身神真深 進世整昔全相送想息速族他打对待代第題炭短談着注柱丁帳調追定庭笛鉄転都 度投豆島湯登等動童農波配倍箱畑発反坂板皮悲美鼻筆氷表秒病品負部服福物 平返勉放味命面問役薬由油有遊予羊洋葉陽様落流旅両緑礼列練路和 (200字)
第4学年	愛案以衣位困胃印英栄塩億加果貨課芽改械害街各覚完官管関観願希季紀喜旗 器機議求泣救給拳漁共協鏡競極訓軍郡径型景芸欠結建健験固功好候航康告差 菜最材昨札刷殺察参産散残士氏史司試児治辞失借種周祝順初松笑唱焼象照賞 臣信成省清静席積折節説浅戦選然争倉巢束側続卒孫帶隊達単置仲貯兆腸低底 停の典伝徒努灯堂働特得毒熱念敗梅博飯飛費必票標不夫付府副粉兵別辺変便 包法望牧末満未脈民無約勇要養浴利陸良料量輪類令冷例歴連老勞録 (200字)
第5学年	圧移因永管衛易益液演忘往桜恩可仮価河過賀快解格確額刊幹慣眼基寄規技義 逆久旧居許境均禁句群経潔件券険檢限現減故個護効厚耕鉦構興講混查再災妻 採際在財罪雑酸賛支志枝師資飼示似識質舍謝授修述術準序招承証条状常情織 職制性政勢精製税責績接設舌絶銭祖素総造像増則測属率損退貸態困断築張提 程適敵統銅導徳独任燃能破犯判版比肥非備俵評貧布婦富武復復仏編弁保墓報 豊防貿暴務夢迷綿輸余預容略留領 (185字)
第6学年	異遺域宇映延沿我灰抜革閣割株干卷看簡危机揮貴疑吸供胸郷勤筋系敬警劇激 穴絹権憲源巖己呼誤后孝皇紅降鋼刻穀骨困砂座濟裁策冊蚕至私姿視詞誌磁射 捨尺若樹収宗就衆従縦縮熟純処署諸除将傷障城蒸針仁垂推寸盛聖誠宣専泉洗 染善奏窓創装層操蔵臓存尊宅担探誕段暖值宙忠著片頂潮賃痛展討党糖届難乳 認納脳派拝背肺俳班晩否批秘腹奮並陛閉片補暮宝訪亡忘棒枚幕密盟模訳郵優 幼欲翌乱卵覧裏律臨朗論 (181字)

【計 1006 字】

(4) 目標の系統

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校第1学年
○教科国語の目標			
<p>国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。</p>			
○A「話すこと・聞くこと」の目標			
<p>相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事な事を落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p>	<p>相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p>	<p>目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり、聞いたりしようとする態度を育てる。</p>	<p>目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。</p>
○B「書くこと」の目標			
<p>経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書くようとする態度を育てる。</p>	<p>相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書くようとする態度を育てる。</p>	<p>目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。</p>	<p>目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。</p>
○C「読むこと」の目標			
<p>書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。</p>	<p>目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。</p>	<p>目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。</p>	<p>目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。</p>

中学校第2学年	中学校第3学年	高校 必履修科目	高校 各科目
---------	---------	----------	--------

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

目的や場面に  
応じ、社会生活に  
かかわることなど  
について立場や  
考えの違いを踏  
まえて話す能力、  
考えを比べなが  
ら聞く能力、相手  
の立場を尊重し  
て話し合う能力を  
身に付けさせると  
ともに、話したり  
聞いたりして考え  
を広げようとする  
態度を育てる。

目的や場面に  
応じ、社会生活  
にかかわること  
などについて相手  
や場に応じて話  
す能力、表現の  
工夫を評価して  
聞く能力、課題  
の解決に向けて  
話し合う能力を  
身に付けさせると  
ともに、話したり  
聞いたりして考え  
を深めようとする  
態度を育てる。

目的や意図に  
応じ、社会生活に  
かかわることなど  
について、構成を  
工夫して分かりや  
すく書く能力を身  
に付けさせるとと  
もに、文章を書い  
て考えを広げよう  
とする態度を育て  
る。

目的や意図に  
応じ、社会生活に  
かかわることなど  
について、論理  
の展開を工夫し  
て書く能力を身に  
付けさせるとと  
もに、文章を書い  
て考えを深めよう  
とする態度を育て  
る。

目的や意図に  
応じ、文章の内  
容や表現の仕方  
に注意して読む  
能力、広い範囲  
から情報を集め  
効果的に活用す  
る能力を身に付  
けさせるととも  
に、読書を生活  
に役立てようとする  
態度を育てる。

目的や意図に  
応じ、文章の展  
開や表現の仕方  
などを評価しなが  
ら読む能力を身  
に付けさせるとと  
もに、読書を通  
して自己を向上さ  
せようとする態度  
を育てる。

**【国語表現】**  
国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

**【現代文A】**  
近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

**【現代文B】**  
近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

**【古典A】**  
古典としての古文と漢文、古典に関する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

**【古典B】**  
古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

**【国語総合】**  
国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

(5) 学習内容の系統

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<b>【話題設定や取材】</b>		
<p>ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。</p>	<p>ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。</p>	<p>ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。</p>
<b>【話すこと】</b>		
<p>イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。</p>	<p>イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。</p>	<p>イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。</p>
<p>ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。</p>	<p>ウ 相手を見たり言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。</p>	<p>ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。</p>
<b>【聞くこと】</b>		
<p>エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。</p>	<p>エ 話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりすること。</p>	<p>エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。</p>
<b>【話し合うこと】</b>		
<p>オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。</p>	<p>オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。</p>	<p>オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。</p>
<b>言語活動例</b>		
<p>ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合っって考えを一つにまとめたりすること。 ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡を合ったりすること。 エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。</p>	<p>ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。 イ 学級全体で話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。 ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。</p>	<p>ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。 イ 調べたことやまとめたことについて、討論などをする事。 ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。</p>

中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年	国語総合
<p>ア 日常生活の中から話題を決め、話したり、話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。</p>	<p>ア 社会生活の中から話題を集め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で決め整理すること。</p>	<p>ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする事。</p> <p>イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。</p>	<p>【話題設定・取材・構成】</p> <p>ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えを持ち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べる事。</p>
<p>イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。</p>	<p>イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。</p>	<p>ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。</p>	<p>イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。</p>
<p>ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。</p>	<p>ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。</p>	<p>エ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。</p>	<p>ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考え方を尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。</p>
<p>エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。</p>	<p>エ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。</p>	<p>ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。(再掲)</p>	<p>【交流・評価】</p> <p>エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p>
<p>オ 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。</p>	<p>オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。</p>		
<p>ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。</p> <p>イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。</p>	<p>ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。</p> <p>イ 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。</p>	<p>ア 時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。</p> <p>イ 社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。</p>	<p>ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。</p> <p>イ 調査したことなどをまとめて、報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。</p> <p>ウ 反論を想定して発言したり、疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話し合いや討論などを行うこと。</p>

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
--------	--------	--------

【課題設定や取材】

ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。

ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。

ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。

【構成】

イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。

イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。

【記述】

ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。

ウ 書こうとする事を中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。  
エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。  
エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。

【推敲】

エ 文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに気付き、直すこと。

オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

【交流】

オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。

カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。

カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

言語活動例

ア 想像したことなどを文章に書くこと。  
イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。  
ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。  
エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。  
オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。

ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。  
イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。  
ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。  
エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。

ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。  
イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。  
ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。

中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年	国語総合
<p>ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。</p>	<p>ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。</p>	<p>ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。</p>	<p><b>【題材選定・取材・表現の工夫】</b></p> <p>ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。</p>
<p>イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。</p>	<p>イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。</p>	<p>イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。</p>	
<p>ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。</p>	<p>ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。</p>	<p>ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。</p>	<p><b>【推敲・交流・評価】</b></p> <p>エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、もの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p>
<p>エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。</p>	<p>エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。</p>	<p>エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、もの見方や考え方を深めること。</p>	
<p>オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。</p>	<p>オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて、意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。</p>	<p>ア 関心のある事柄について批評する文章を書くこと。 イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること。</p>	<p>ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくりたり随筆などを書いたりすること。 イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。 ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。</p>
<p>ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。 イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。 ウ 行事等の案内や報告をする文章を書くこと。</p>	<p>ア 表現の仕方を工夫して、詩歌をつくりたり物語などを書いたりすること。 イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。 ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。</p>		

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
--------	--------	--------

**【音読】**

ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。

ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。

**【効果的な読み方】**

**【説明的な文章の解釈】**

イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。

**【文学的な文章の解釈】**

ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたしすること。

イ  
ウ  
へ

**【自分の考えの形成及び交流】**

エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。  
オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。

エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。  
オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

イ  
ウ  
へ

エ  
オ  
へ

**【目的に応じた読書】**

カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。

カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

カ  
へ

**言語活動例**

ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。  
イ 物語の読み聞かせを聞いたたり、物語を演じたりすること。  
ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。  
エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。  
オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。

ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。  
イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。  
ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。  
エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。  
オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。

ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。  
イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。  
ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。  
エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。

中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年	国語総合
<p><b>【語句の意味の理解】</b></p>			<p><b>【表現に即した理解】</b></p>
<p>ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。</p>	<p>ア 抽象的な概念を表す語句や、心情を表す語句などに注意して読むこと。</p>	<p>ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。</p>	<p>ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。</p>
<p><b>【文章の解釈】</b></p>			
<p>イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。</p> <p>ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。</p>	<p>イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。</p>	<p>イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。</p>	<p>イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。</p> <p>ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。</p>
<p><b>【自分の考えの形成】</b></p>			<p><b>【考えの形成・読書・情報活用】</b></p>
<p>エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。</p> <p>オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。</p>	<p>ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。</p> <p>エ 文章に書かれているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。</p>	<p>ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。</p> <p>エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。</p>	<p>エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。</p> <p>オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。</p>
<p><b>【読書と情報活用】</b></p>			
<p>カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。</p>	<p>オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。</p>	<p>オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。</p>	<p>ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。</p> <p>イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。</p> <p>ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えを持って話し合うこと。</p> <p>エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。</p>
<p>ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。</p> <p>イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。</p> <p>ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。</p>	<p>ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。</p> <p>イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。</p> <p>ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。</p>	<p>ア 物語や小説などを読んで批評すること。</p> <p>イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。</p> <p>ウ 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。</p>	<p>ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。</p> <p>イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。</p> <p>ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えを持って話し合うこと。</p> <p>エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。</p>

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

	(小)第1学年及び第2学年	(小)第3学年及び第4学年	(小)第5学年及び第6学年
	(1)「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。		
ア 伝統的な言語文化に関する事項	(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いた り、発表し合ったりすること。	(ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしったりすること。 (イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。	(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。 (イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	(ア) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (イ) 音節と文字の関係や、アクセントによる後の意味の違いなどに気付くこと。 (ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 (エ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 (オ) 句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。 (カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。 (キ) 敬体で書かれた文章に慣れること。	(ア) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (イ) 漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 (ウ) 送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 (エ) 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 (オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で種別があることを理解すること。 (カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。 (キ) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。 (ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。	(ア) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 (イ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくこと。 (ウ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 (エ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心を持つこと。 (オ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 (カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持つこと。 (キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 (ク) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。 (ケ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

	(中)第1学年	(中)第2学年	(中)第3学年	国語総合
	(1)「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。			
ア 伝統的な言語文化に関する事項	<p>(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。</p> <p>(イ) 古典には様々な種類の作品があることを知ることを。</p>	<p>(ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。</p> <p>(イ) 古典の表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。</p>	<p>(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。</p> <p>(イ) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。</p>	<p>(ア) 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。</p> <p>(イ) 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。</p>
イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	<p>(ア) 音声の働きや仕組みについて関心をもち、理解を深めること。</p> <p>(イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。</p> <p>(ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもち、こと。</p> <p>(エ) 単語の種別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。</p> <p>(オ) 比喩や反復などの表現の技法について理解すること。</p>	<p>(ア) 話し言葉と書き言葉の違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。</p> <p>(イ) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>(ウ) 文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること。</p> <p>(エ) 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること。</p> <p>(オ) 相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開の違いがあることを理解すること。</p>	<p>(ア) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。</p> <p>(イ) 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p>	<p>(ア) 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。</p> <p>(イ) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。</p>

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

	(小)第1学年及び第2学年	(小)第3学年及び第4学年	(小)第5学年及び第6学年
	(1)「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。		
ウ 文字 に関 する 事項	<p>(ア) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(ウ) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>(ア) 第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。</p> <p>(イ) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(ウ) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識を持つこと。</p>	<p>(ア) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p>
	(2)書写に関する次の事項について指導する		
(書写)	<p>ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。</p> <p>イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。</p>	<p>ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。</p> <p>イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。</p> <p>ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。</p>	<p>ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。</p> <p>イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。</p> <p>ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。</p>

	(中)第1学年	(中)第2学年	(中)第3学年	国語総合
	(1)「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。			
ウ 漢字に関する事項	(ア) 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。 (イ) 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	(ア)第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。 (イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	(ア) 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。 (イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。	(ア) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。
	(2)書写に関する次の事項について指導する			
(書写)	ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。	ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。 イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。	ア 身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。	







